

令和2年度 推薦入試

公共政策学部 小論文問題 出題意図

【一】

問一

問一では、問題文を正しく理解した上で、その内容を手がかりとして予想される影響について推察することを求めており、受験生の読解力、記述力、想像力、思考力を問うものである。

まず、筆者が「決定論的なニュアンスが強まるようだ」としている報道について、的確に理解していることが回答から読み取れること、そしてそのような報道が情報の受け手に及ぼす影響について、身近な例を使って簡明に説明できているかが、評価のポイントである。

問二

問二では、病気の因果関係の解明における疫学の役割についての筆者の主張をまとめることを求めており、受験生の読解力、記述力、要約力を問うた。①因果関係を明らかにするためには多数回の観察が必要とされること、②対象の条件をそろえた上でグループ分けをして比較を行うこと、③個人における因果関係を疫学によって明らかにすることはできないとの見方は、科学的証拠を認めないものであることなどが、的確かつ簡潔に記述されているかが、評価のポイントとなる。

【二】

問題で取り上げた3つの図表から、高齢者世帯の経済状況について読み取れることを問う問題である。

評価の主なポイントは、①図表が示している基本的な内容を正確かつ的確に理解できているか、②①の内容を踏まえて、現在の退職世代が置かれている経済環境の特徴や課題を詳しく検討できているか、あるいは現在の退職世代はもとより、および将来の退職世代（受験生を含む現在の現役世代）を対象として求められる施策について考察できているか、以上2点である。

特に①については、各項目の内容や関係、あるいは3つの図表間の関係を正確に理解する必要がある。その上で、受験生自身で分析・評価の軸を設定し、高齢者世帯の経済状況にみられる基本的な傾向を正確につかむことが重要となる。その際、3つの図表全て、また掲載されている全ての項目に言及する必要は必ずしもなく、字数の範囲でポイントを的確に抑えることも、合わせて求められる。

また、②については、図表から読み取れることを踏まえて、事実に基づく考察を行う必要がある。なお、今回の題材は、いわゆる「老後 2000 万円」問題として世間の注目を集めた、金融庁金融審議会市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」（2018年6月）で取り上げられた統計データの元となるものである。もちろん、これに関連付けて考察を行ってもよいが、そうした関連付け、ないし言及がなくても、全く問題はない。

【三】

問一

この問題は、文章に書かれた筆者の主張を理解する力と、それを具体的な事例に当てはめて考察する力、およびそれらをまとめて論理的に記述する力を問うものであった。

まず暉峻の主張が、社会問題の解決において当事者たちがしっかりと対話すべきであることと、その際に自分の目先の損得ではなく相互理解や未来に対する思考を基盤とすべきであることを読み取る必要がある。その上で、保育・学校施設への騒音問題について住民、施設、行政などの主体の関与のあり方にどのような主張がなされるか、論理的に推測して述べることができているか否かを評価した。

問二

この問題は、特定のテーマに対する自分の考えを、関連情報を適宜引用しながら論理的・説得的に記述する力を問うものである。

幼稚園・保育園の騒音問題についてどのような意見であるかに関わらず、暉峻の主張や他の根拠をもとに、論理の筋道が通っていて説得力のある文章で自分の意見を述べることができているか否かを評価した。